

リカレント学習講座について

生活福祉科科长
村岡洋子

リカレント学習講座とは、京都府が府内の高等教育機関および経済・労働団体、報道機関、地方公共団体と連携して取り組んでいる、社会人を対象にしたリカレント教育の実践です。

リカレント教育は、時代の変化に対応して社会人・職業人として、絶えず新しい知識や技術を更新し続け、深め、追及していくためのものとされています。

しかし、一般の社会人にとっても、こういった講座は極めて大きな役割を持っています。

高齢化、男女共同参画、地方分権が進展していく現在、ともに幸せを生きて行けるような街を作っていくためには、時代の流れを正確に把握し、人権と福祉の視点をきちんと見据えた地域住民の知恵と参画が欠くことのできない必須条件です。生涯の各期にあって、自分達がどのように生き、行動していくべきか、住民の一人一人が学んだことを、自分たちのこととして、話し合い論議を深め、明日の街づくりに活かしていけるような講座を持ちたいと考えました。

この講義の内容はこれまでの自分の知る限りの人間関係を総て注ぎ込んだもので、今の私には、これ以上のものは作れない最高のまさに“目から鱗”であったと思っています。

1998、1999年と、二期に互って行いました。テーマは、

「福祉と人権の視点から、明日の街づくりを考える」I、II、です。

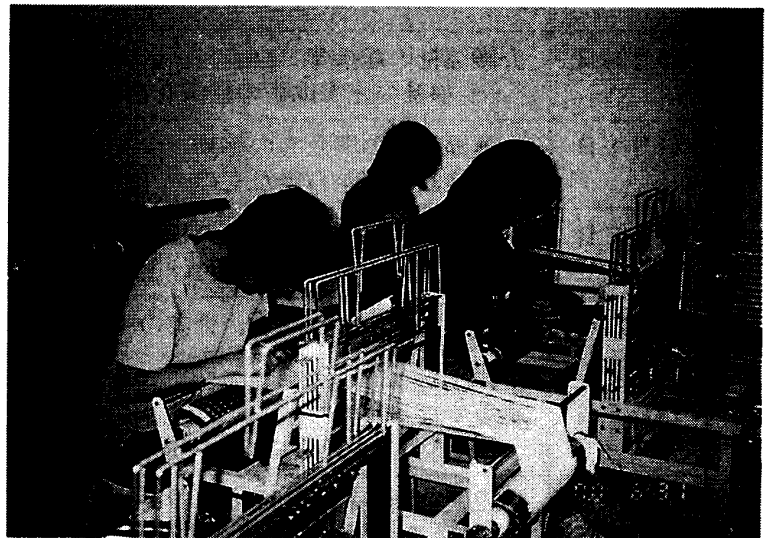
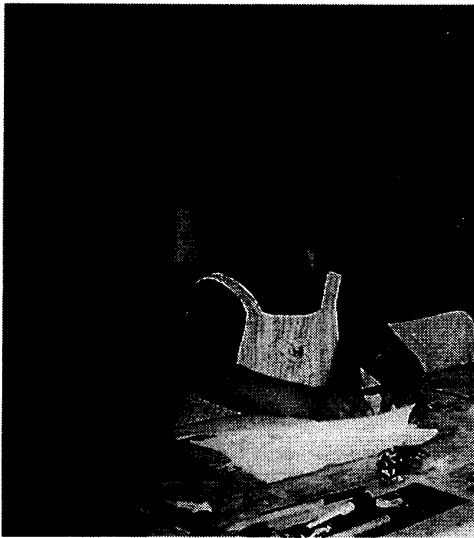
1998年 リカレント学習講座 プログラム

日 時	講 義 内 容	講 師
9月11日	介護保険制度で街の介護福祉はどう変わる — 介護の理念を新しい制度に実現するために —	京都短期大学教授 村岡洋子
9月19日	理想の老人ホームを求めて— I — ここまでする、ここまでできる 老人ホームで保障する高齢者の暮らしの質 — (介護保険の実施で施設福祉はどうなる?)	明星園副総園長 松島慈児
9月26日	理想の老人ホームを求めて— II 見学：朝来町 あさがおホール 講演：人権の視点から施設福祉を考える	あさがおホール施設長 足田優子
10月16日	ビデオ上映と話し合い； 「呆けなんか恐くない」 「寝たきり老人も起きられる」	京都短期大学教授 村岡洋子

10月24日	介護福祉の経済学 — 福祉の充実は街の経済を活性化する？ —	京都大学教授 西村 周三
11月1日	介護福祉士の卵たちの感動 — 施設実習から得たもの —	京都短期大学 生活福祉専攻学生
11月7日	介護を担う人達の福祉と人権 ホームヘルパーの位置付けと働き方	滋賀文化短期大学非常勤講師 福島 知子
11月22日	暮らしの中の女性問題、世界の中の女性問題	松香堂書店社長 中西 豊子
12月5日	男もすなる女性学 — 男女共生社会はジェンダーの視点から —	京都大学教授 上杉 孝實
12月12日	「児童権利条約」の中身を改めてやさしく — 世界的視点で子供の人権を見る —	ビデオドック代表 田上 時子

1999年 京都短期大学リカレント学習講座

日 時	講 義 内 容	講 師
6月12日	自立して生きていく力を育てるために — 家庭で、今、これだけは — 子供の現状とエンパワメント	保育園長 元小学校長 池沢 潤 片山 蓉子
6月19日	学校教育の中のジェンダー — 幼い時から男女平等教育を —	愛知大学講師 日野 玲子
7月2日	福知山の高齢化事情と介護保険制度の創設 — 新しい人口調査に基づいて —	福 知 山 市
7月17日	ビデオ鑑賞と話し合い 「住民が選択した町の福祉」「その後の鷹巣町」	京都短期大学 村岡 洋子
7月25日	施設見学と講演 — わが町に障害者福祉施設を創るまで —	身体障害者施設 夢織りの里 青木 一博
8月4日	介護保険の中のジェンダー — 現金給付はなぜ“いけない”のか —	東京家政大学教授 樋口 恵子
8月28日	私達の願う男女共生社会とは — 家庭と社会の中のジェンダーを洗い出す —	龍国大学教授 竹中 恵美子
9月18日	介護福祉士を育てる — 介護の理念と介護福祉士の役割 —	京都短期大学 村岡洋子・田岡洋子 青木君代・檀 明 介護福祉専攻学生(7人)
10月2日	介護に働く人の福祉と人権 — ホームヘルパーの全国調査から — 介護保険制度における介護労働の位置	武庫川大学教授 小松 満貴子



参加者の方々は極めて熱心に受講してくださり、最も多かった感想は、やはり、狙いどおり“目から鱗”でした。定員の6割の方が二つの講座を通して聴講してくださいました。

かなり多くの突っ込んだ質問が出ましたが、わが街の街づくりにどう活かすかまでの論議には至らなかったと思います。

2000年度の取り組み

2000年度には、趣旨は同じでも少し方向を変えて、テーマを、

「高齢者のリハビリ・生き甲斐対策としての織り・染への手ほどき講座」

と設定しました。この課題は本学が介護福祉士の養成施設として発足して以来いつかは取り組みたいと願っていたものです。

北欧等の福祉先進国のデイサービスセンターでは、この2つをはじめ、陶芸、木工、運動等が障害を持つ高齢者の趣味活動として盛んに取り上げられ、長い時間を掛けてみごとな作品が作られ、多勢の高齢者が楽しんで生き生きと取り組んでおられます。時にはバザーなどでよい値段で売れて「収入」に繋がることもあるそうです。

特にこの京都府北部には、織りや染めの名手である高齢者がおられ、その方たちにとっては絶好の特技を発揮する機会にもなるのではないかと、という期待もあります。

まず、手始めに、染めや織りに親しみ、施設やデイサービスセンターでボランティアとして或いは指導者として織りや染めの活動に参加したい方の第一歩を、一緒に踏み出したいと考えたのです。

その趣旨に沿って、今回は、指導者があらかじめお膳立てをして立派な作品を仕上げるのではなく、自分で一から準備と段取りから始めていくような講座としました。

参加者たちの中には、施設福祉の職員の方も3名おられ、極めて意欲的で懸命に取り組んで

楽しみ有意義な成果を挙げられたと思います。

私は日本の高齢者対策の最も重要な点の一つは、長期にわたって継続でき、生き甲斐となるような趣味活動である、と考えているので、いつかは学内に、家政科時代の遺産である織り機や染色の設備、陶芸の窯などを活かした活動の場を設けたいと願っています。

今回の講座は、いわば、その第一歩といえるでしょう。

いずれにしても、短大や大学、特に地方都市に存在する高等教育機関は、その持てる能力を活かして、地域にできるだけの貢献をするのが責務であると思っています。

3年間のリカレント講座を通して、微力ながらその一部を果たす機会に恵まれたことを、有り難いと思います。

2000年度 京都府リカレント学習講座内容

日 時	講 義 内 容	講 師
8月28日	講演「高齢期から織りに魅せられて」 講演「藍を育て、すくもを作り、布を染める」	瀬美庵織梅原啓治 福知山藍同好会 塩見敏治
8月29日	講演「機を織ること」 講演「布を染めること」	染織家 河口三千子 京都短期大学 田岡洋子 助 教 授
8月30日 9月1日 9月4日	実習「機を織る」 } 織りと染めのコースに分かれ 実習「布を染める」 } て行います 実習「布を染める」	河口三千子・柿原志津子 田岡洋子・勝田晃代 田岡洋子・勝田晃代
9月5日	ビデオ「藤ノ木古墳の錦を再現する」 講 演「広峰古墳の錦を分析」 — 丹後王国存在の幻を追う —	京都短期大学学長 四 方 正 義
9月6日 9月7日	実 習 実 習	